



平成 28 年 7 月の園だより



水あそびが始まります!

今月より、水あそびが始まります。屋上やテラス、園庭など、安全、衛生に気をつけながら、それぞれの場所で体調や気温に合わせておこなっていきます。

幼児クラスは、屋上の滑り台付きの大きなプールに入ります。乳児クラスは、2階テラスにプールを広げて、お水あそびを楽しみます。持ち物など詳しいことはミニコミや貼紙でお知らせします。



大自然の中でお泊り保育

山県郡北広島町のログハウス“山の家”で年長組さんが、学生ボランティアのお兄さんお姉さんと一緒にお泊り保育を楽しみます。農園に行き、とうもろこしを収穫したり、グループでポイントラリーや、夕食のカレーライス作りなど、貴重な楽しい経験を沢山します。また夜にはキャンプファイヤーをした後、虫の声や葉っぱの揺れる音を聞きながら露天風呂に入ったり、スイカを食べたり、花火をして遊びます。

保護者の皆さんから離れ、大自然の中いろいろな世代の人と過ごすことで、協力することの大切さや、自律心を育む機会となればと思っています。



7月7日は七夕です。人日(正月)、上巳(桃の節句)、端午、七夕、重陽(菊の節句)は、昔から五節句といわれ、それぞれにちなんだ伝説や行事があります。

七夕は星まつりで、天の川をはさんで東西に位置するアルタイ星とベガ星をけん牛(ひこ星)、織姫(織姫星)と呼んでいます。この二人は仲が良すぎて仕事をしなくなったため、天の神の怒りに触れ、別れ別れになってしまったのです。しかし、それから二人は懸命に働き、一年に一度7月7日カササギの橋の上で会うことが許されたと伝えられています。

子どもの「噛みつき」「引っ掻き」について

6月11日(土)の運動会では、準備はもとより進行、後片付けに至るまで、お手伝い、ご協力をいただきありがとうございました。おかげさまで、当日は梅雨雲の隅間をぬって何とか天候にも恵まれ、また、大きな怪我もなく無事に終えることができました。ご協力に心より感謝申し上げます。また、今年度は乳児の体調面、全体の所要時間等を考慮し、0・1歳児のプログラムをなくしてみました。未就園児の競技に多くの0・1歳児親子が参加する光景を見て、引き続き検討していく必要があると考えています。

さて、1、2歳児クラスで「噛みつき」「引っ掻き」が続いています。保護者のお気持ちを察すると大変申し訳なく思います。

0～3歳までの子どもたちは、言葉で上手く表現できず、さっきまで仲良く遊んでいたのに突然に「噛みつく」または「引っ掻く」といった行為にでてしまいます。これはある意味、意思疎通が十分に育っていないこの時期特有の表現方法です。させないよう常に目を行き届かせていますが、ほとんどの場合、瞬間的ですので防ぐことができない場合がほとんどです。園では、事後、した子の気持ちが静まったらその思いを聞き、とても痛いということ、いけないことだということを諭しながらされた子の悲しい気持ちを伝え、された子にはすぐに冷やすなどの処置をし、「痛かったね」とその子の気持ちを十分に受けとめ、しっかりと抱きしめ、気持ちが落ち着くのを待ちます。傷がひどい場合には病院にかかる場合もありますが、大概は看護師の処置で対応できています。

我が子の痛々しい傷跡を見ると、どうしても腹ただしい気持ちになったり、それが続くといじめられているのではないかとご心配される保護者の方の気持ちはよく理解できます。

そうした中、相手の子どもの名前を教えてほしいとか、自分の子がした場合は必ず教えてほしいという要望が少なからずありますが、園内で起こった怪我等はすべて園の責任であり、また、決して悪意がないということから、原則として報告しないことにしております。もちろん、した子、された子のイライラがあまりにもひどい場合は、ご家庭での様子を聞く意味でお話しをお伺いすることもあります。いずれにせよ、子どものトラブルに必要以上に大人が介入、口出しすることは決してよくないと考えています。子どもたちはさまざまなトラブルを経験する中で、相手の痛みや力加減を学んでいきます。自己解決能力も身につけていきます。痛みや力加減を知らないということは、感情のコントロールができない要因にも繋がっていきます。

保護者の皆様におかれましても、いろいろとご心配、ご不満もあろうかと思いますが、こうした行為は、誰もが経験しうる成長のワンステップであり、決して悪意がないということをご理解いただければ幸いです。園においても、子どもたちが落ち着ける環境づくりを心掛けながら丁寧な保育を実践してまいります。

これからの時期はさまざまな行事が続きます。行事は成長を表現する場でもあります。お子さんの自らの「生きる力」を信じ、友だち、集団生活に揉まれながら逞しく成長していく姿をこれからもあたたかく見守ってほしいと思います。

子育て応援メッセージ

他人と比較してはいけない
ほんのわずかでも、できている部分を
見つけ、
それに気づかせることが重要だ



親は子どもに何か教える際に、周囲の子どもやきょうだいを例にとり、比較しがちです。それにより、見本を示すとともに間違いに気づかせ、懲らしめる効果を狙うのです。しかし、子どもは比較されることにより、自信を失い傷つきます。そして問題行動を増やす結果になるのです。もし正しい例を示したいのであれば、本人の中にある、ほんのわずかでもできている部分を見つけそれに気づかせることが大切です。

ダイヤモンド社

「アルフレッド・アドラー

人生に革命が起きる100の言葉

小倉 広 解説

地震・水害に備えよう

広島市南消防署
警防課 救助係

